

## 加工施設再編等緊急対策事業のうち製粉工場等再編合理化事業の事業評価票

- 1 事業実施主体名：沖縄製粉株式会社
- 2 事業実施期間：平成28年 ～ 令和6年
- 3 補助額（事業費）：61,493,397円（133,905,737円）

## 4 事業内容

- ・製粉工場の一部設備の廃棄・撤去による能力削減及び稼働率の向上
- ・乾麺（手延麺）設備の刷新による生産効率、歩留の向上及び新製品の開発の実施
- ・ミックス設備の刷新による生産効率の向上及び新製品の開発の実施

## 5 成果目標の達成状況

成果目標の具体的内容 上段は実施要領上の成果目標 下段【】は事業者が定めた目標	達成状況		
	基準年（平成27年）	令和6年 （目標値）	達成率* （達成率）
製造コストを5%以上削減 【5.0%削減】	7,011円/トン	6,577円/トン (6,660円/トン)	124% (6.2%削減)
稼働率を5ポイント以上増加 【19.5ポイント増加】	51.3%	69.9% (70.8%)	95% (18.6ポイント増加)
国内産麦の引取量増加 【15トン増加】	0トン	0トン (15トン)	0% (0トン)
販売金額又は販売数量の5%以上の増加 【販売数量5%増加】	20,993トン	20,405トン (22,043トン)	▲56% (2.8%減少)

\*. 事業者が定めた目標（下段）に対する達成率

## 6 評価

- A : 目標以上の成果を達成
- B : おおむね目標どおりの成果を達成
- C : 目標未達

注：A～Cのいずれかに○を付けること。

## 7 農産局長の総合所見

令和5年度に目標が達成されなかったため改善計画の作成を求めたところ、令和6年度においては、実施要領上の成果目標のうち、製造コストの削減及び稼働率の増加については目標を達成したが、国内産麦の引取量増加及び販売数量の増加は未達成となった。

引き続き、目標達成に向け必要な改善計画の作成を求めることとする。

## 加工施設再編等緊急対策事業のうち製粉工場等再編合理化事業の事業評価票

- 1 事業実施主体名：永倉精麦株式会社
- 2 事業実施期間：平成27年 ～ 令和6年
- 3 補助額（事業費）：7,515,000円（16,232,400円）

4 事業内容

・ 操業度の向上及び製造コストの縮小のため、精麦工場等の一部の施設等の廃棄・撤去

5 成果目標の達成状況

成果目標の具体的内容 上段は実施要領上の成果目標 下段【 】は事業者が定めた目標	達成状況		
	基準年（平成26年）	令和6年 （目標値）	達成率* *
製造コストを5%以上削減 【5%削減】	212,175円/トン	195,787円/トン (201,565円/トン)	154% (7.7%削減)
稼働率を5ポイント以上増加 【5ポイント増加】	7.7%	8.7% (12.7%)	20% (1ポイント増加)
国内産麦の引取量増加 【355トン増加】	2,245トン	1,661トン (2,600トン)	▲165% (584トン減少)

\*. 事業者が定めた目標（下段）に対する達成率

6 評価

- A : 目標以上の成果を達成  
 B : おおむね目標どおりの成果を達成  
 C : 目標未達

注：A～Cのいずれかに○を付けること。

7 農産局長の総合所見

令和5年度に目標が達成されなかったため改善計画の作成を求めたところ、令和6年度においては、実施要領上の成果目標のうち、製造コストの削減については目標を達成したが、稼働率の増加及び国内産麦の引取量増加は未達成となった。  
 引き続き、目標達成に向け必要な改善計画の作成を求めることとする。

## 加工施設再編等緊急対策事業のうち精製糖工場等再編合理化事業の事業評価票

- 1 事業実施主体名：日本甜菜製糖株式会社、北海道糖業株式会社
- 2 事業実施期間：令和3年 ～ 令和4年
- 3 事業費（国費）：3,506,483,878円（1,593,856,308円）

### 4 事業内容

北海道の製糖工場のうち、北海道糖業株式会社 本別製糖所を廃棄・撤去し、日本甜菜製糖株式会社 芽室製糖所、北海道糖業株式会社 北見製糖所の2箇所にて再編統合する。再編統合に伴い、各製糖工場の稼働率の向上を図り、北海道の製糖工場の製造コストを低減させる。

### 5 成果目標の達成状況

成果目標の内容	基準年	目標年	達成率	備考
	平成30年	令和6年		
再編後の製造コストを3%以上削減	53,118円/t	68,763円/t	▲646.8%	
再編後の工場の稼働率が10%以上向上	82.21%	78.86%	▲17.3%	

### 6 評価

- A : 目標以上の成果を達成
- B : おおむね目標どおりの成果を達成
- C : 目標未達

注：A～Cのいずれかに○を付けること。

### 7 農産局長の総合所見

製造コスト削減及び稼働率向上の成果目標に関して、①てん菜方針による原料処理量の減少、②物流2024問題によるトラックドライバーの不足、③物価及び賃金上昇による製造コストの上昇等、糖業の努力では解決できない課題が生じ、目標達成には至らなかったと推察されるが、事業実施主体に対し、改善計画の提出を求めることとする。

別記様式第5号

加工施設再編等緊急対策事業のうち乳業工場機能強化事業の事業評価票

- 1 事業実施主体名：よつ葉乳業株式会社
- 2 事業実施期間：平成29年度
- 3 補助額（事業費）：333,273,903円（783,903,962円）

4 事業内容

輸入品との競合が見込まれるハード系チーズのうちシュレットタイプの生産から撤退し、今後の需要増加が見込まれるはっ酵乳の生産体制を整備する。  
(整備内容)  
はっ酵乳生産設備  
(廃棄内容)  
ハード系チーズ（シュレットタイプ）生産設備

5 成果目標の達成状況

対象工場における製造ライン転換後の品目の年間製造量（トン）

ライン転換後の品目	現況値	目標値	実績	備考
	平成27年	令和3年度	令和6年度	
はっ酵乳	980	5,370	3,224	

6 評価

- A : 目標以上の成果を達成
- B : おおむね目標どおりの成果を達成
- C : 目標未達

注：A～Cのいずれかに○を付けること。

7 農政局長等の総合所見

「転換後の乳製品の製造量の10%以上の増加」は達成したものの、はっ酵乳市場の需要低下や乳価改定に伴う製品価格の値上げの影響もあり、製造量の目標値5,370トン/年に対し、実績値は3,224トン/年と目標を下回ったことから、目標達成に必要な改善計画の作成を求める。

別記様式第5号

加工施設再編等緊急対策事業のうち乳業工場機能強化事業の事業評価票

- 1 事業実施主体名：よつ葉乳業株式会社
- 2 事業実施期間：令和元年度
- 3 補助額（事業費）：392,875,000円（851,279,000円）

4 事業内容

輸入品との競合が見込まれる粉乳の生産を抑制し、輸入品との競合が少なく、今後の需要増加が見込まれる脱脂濃縮乳、クリームチーズへの生産体制の転換のための整備を行う。  
(整備内容)  
濃縮乳生産設備  
クリームチーズ類生産設備  
(廃棄内容)  
既存クリームチーズ生産設備撤去

5 成果目標の達成状況

対象工場における製造ライン転換後の品目の年間製造量（トン）

ライン転換後の品目	現況値	目標値	実績	備考
	平成28年	令和4年度	令和6年度	
脱脂濃縮乳	11,621	13,500	13,583	目標達成
クリームチーズ類	24	200	-	令和4年度に目標達成済

6 評価

- Ⓐ：目標以上の成果を達成
- B：おおむね目標どおりの成果を達成
- C：目標未達

注：A～Cのいずれかに○を付けること。

7 農政局長等の総合所見

脱脂濃縮乳については、製造量の目標値13,500トン年/に対し、実績値は13,583トン/年となり目標を達成した。

別記様式第5号

加工施設再編等緊急対策事業のうち乳業工場機能強化事業の事業評価票

- 1 事業実施主体名：よつ葉乳業株式会社
- 2 事業実施期間：令和2年度
- 3 補助額（事業費）：513,487,500円（1,129,672,500円）

4 事業内容

輸入品との競合が見込まれる粉乳の生産を抑制し、輸入品との競合が少なく、今後の需要増加が見込まれる脱脂濃縮乳、家庭用バター、カマンベールチーズへの生産体制の転換のための整備を行う。  
 (整備内容)  
 カップバター生産設備  
 濃縮乳生産設備  
 カマンベールチーズ生産設備

5 成果目標の達成状況

対象工場における製造ライン転換後の品目の年間製造量（トン）

ライン転換後の品目	現況値	目標値	実績	備考
	平成28年	令和4年度	令和6年度	
家庭用バター	3,459	4,800	4,751	
カマンベールチーズ	108	190	-	令和4年度に目標達成済
脱脂濃縮乳	11,621	13,500	13,583	目標達成

6 評価

- A : 目標以上の成果を達成
- B : おおむね目標どおりの成果を達成
- C : 目標未達

注：A～Cのいずれかに○を付けること。

7 農政局長等の総合所見

脱脂濃縮乳については、製造量の目標値13,500トン/年に対し、実績値は13,583トン/年となり目標を達成した。  
 家庭用バターについては、前年より製造量は増加に転じたものの、乳価改定に伴う製品価格の値上げの影響もあり、製造量の目標値4,800トン/年に対し、実績値は4,751トン/年となり目標をわずかに下回ったことから、目標達成に必要な改善計画の作成を求める。

# 加工施設再編等緊急対策事業のうちばれいしょでん粉工場等再編合理化事業の事業評価票

- 1 事業実施主体名：種子屋久農業協同組合
- 2 事業実施期間：令和3年～令和6年
- 3 補助額（事業費）：342,266,744円（150,916,242円）

## 4 事業内容

種子島のかんしょ澱粉工場のうち、種子屋久農業協同組合 石堂澱粉工場を廃棄・撤去し、市丸産業株式会社 納官澱粉工場、有限会社中村澱粉 中村澱粉工場、有限会社永松産業 永松澱粉工場の3箇所に再編統合する。再編統合に伴い、各かんしょ澱粉工場の稼働率の向上を図り、種子島のかんしょ澱粉の製造コストを低減させる。

## 5 成果目標の達成状況

成果目標の内容	基準年	目標年	達成率	備考
	令和2年	令和6年		
1日当たり稼働率を38.2%に向上	26.5%	21.5%	▲42.7%	
製造コストを4.1%削減	56,371円/t	79,974円/t	▲1029.4%	

## 6 評価

- A：目標以上の成果を達成
- B：おおむね目標どおりの成果を達成
- C**：目標未達

注：A～Cのいずれかに○を付けること。

## 7 農産局長の総合所見

生産農家の高齢化やさつまいも基腐病の影響により原料集荷量が急速に減少したことで澱粉工場の稼働率は低下し、製造コストも上昇する結果となったことから目標達成には至らなかった。  
事業実施主体からは、でん粉工場、JA、行政を含めた協議会を設置し、生産農家への奨励金の抛出や種苗の購入額の助成等の取組により原料集荷量を増加させることで、稼働率の向上が見込めると聞いているところ。  
このため、事業実施主体に対し、改善計画の提出を求めることとする。

# 加工施設再編等緊急対策事業のうちばれいしょでん粉工場等再編合理化事業の事業評価票

- 1 事業実施主体名：美幌地方農産加工農業協同組合連合会、小清水町農業協同組合  
しれとこ斜里農業協同組合、オホーツク網走農業協同組合
- 2 事業実施期間：令和元年 ～ 令和4年
- 3 補助額（事業費）：6,477,688,707円（2,942,054,745円）

## 4 事業内容

JAオホーツク網走におけるでん粉工場の解体・撤去。  
美幌農工連、JA小清水、JAしれとこ斜里における原料受入能力の増強。

## 5 成果目標の達成状況

成果目標の内容	基準年	目標年	達成率	備考
	平成30年	令和6年		
製造コストを 3.8%削減	32,809円/t	41,381円/t	▲684.1%	物価修正、歩留まり補正後 ・製造コスト 31,361円 ・達成率 116%

## 6 評価

- A：目標以上の成果を達成
- B：おおむね目標どおりの成果を達成
- C**：目標未達

注：A～Cのいずれかに○を付けること。

## 7 農産局長の総合所見

トン当たり製造経費は基準年よりも増加し、目標達成には至らなかった。しかしながら、昨今の光熱動力費、諸資材費等の高騰、歩留の低下が要因となっている。そこで、労務費、燃料費、電力費、包装費について、日銀の統計データを用いて平成30年の水準と合わせる物価修正を行い、基準年の歩留まりを使用して試算したところ、31,361円となり目標を達成する製造コストとなった。  
このことから、今回の事業評価を以て終了とする。